

8 管理方法 ③生物浄化式（循環型一般浴槽）

浴槽水の換水と浴槽の清掃

使用日ごとに完全に換水することが原則です。

換水により、浴槽中の汚れなど細菌の栄養源となるものを直接排出することができますので使用日ごとに換水することが原則です。

どうしても使用日ごとに換水できない場合は、少なくとも週に1回以上完全に換水する必要があります。また、換水した時は必ず浴槽を清掃します。

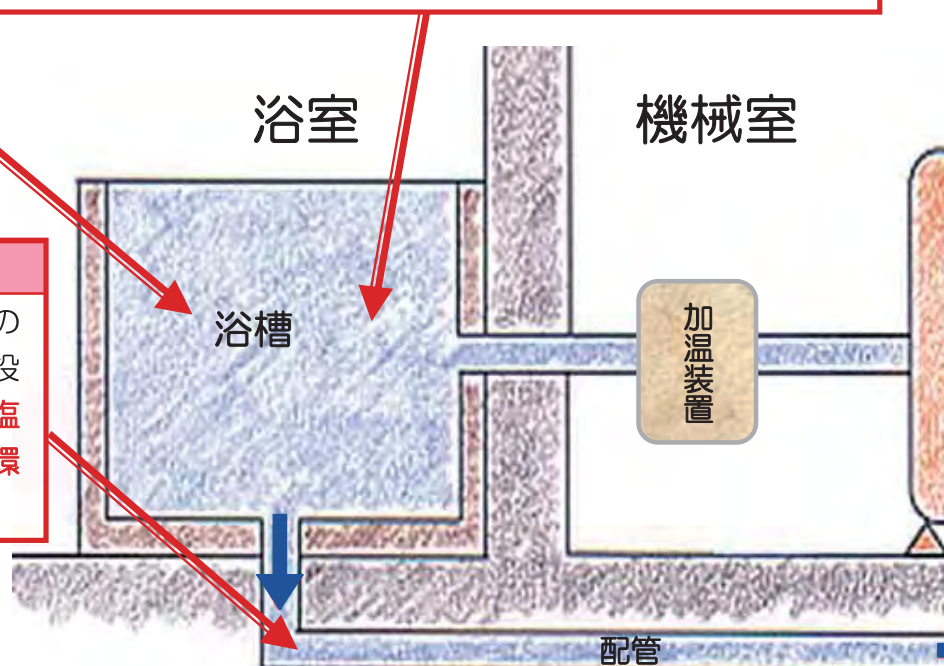
浴槽水の消毒

浴槽水の消毒についてはP21へ。

配管の消毒

週に1回以上、浴槽に通常の10倍程度の塩素系薬剤を投入し、**5~10mg/Lの残留塩素濃度の浴槽水を数時間循環させます。**

浴槽に気泡発生装置やジェット噴射装置などエアロゾルを発生させる設備を設置している場合は、浴槽水を毎日換水します。



使用日ごとの清掃では、

浴槽水の換水と浴槽の清掃→集毛器の清掃 を行います。

使用日ごとに換水できない施設では、使用時間外も残留塩素濃度を0.4mg/L以上に保ちましょう。

週に1回以上の清掃では、

集毛器の清掃→配管の消毒とろ過器の管理→浴槽水の換水と浴槽の清掃 を行います。

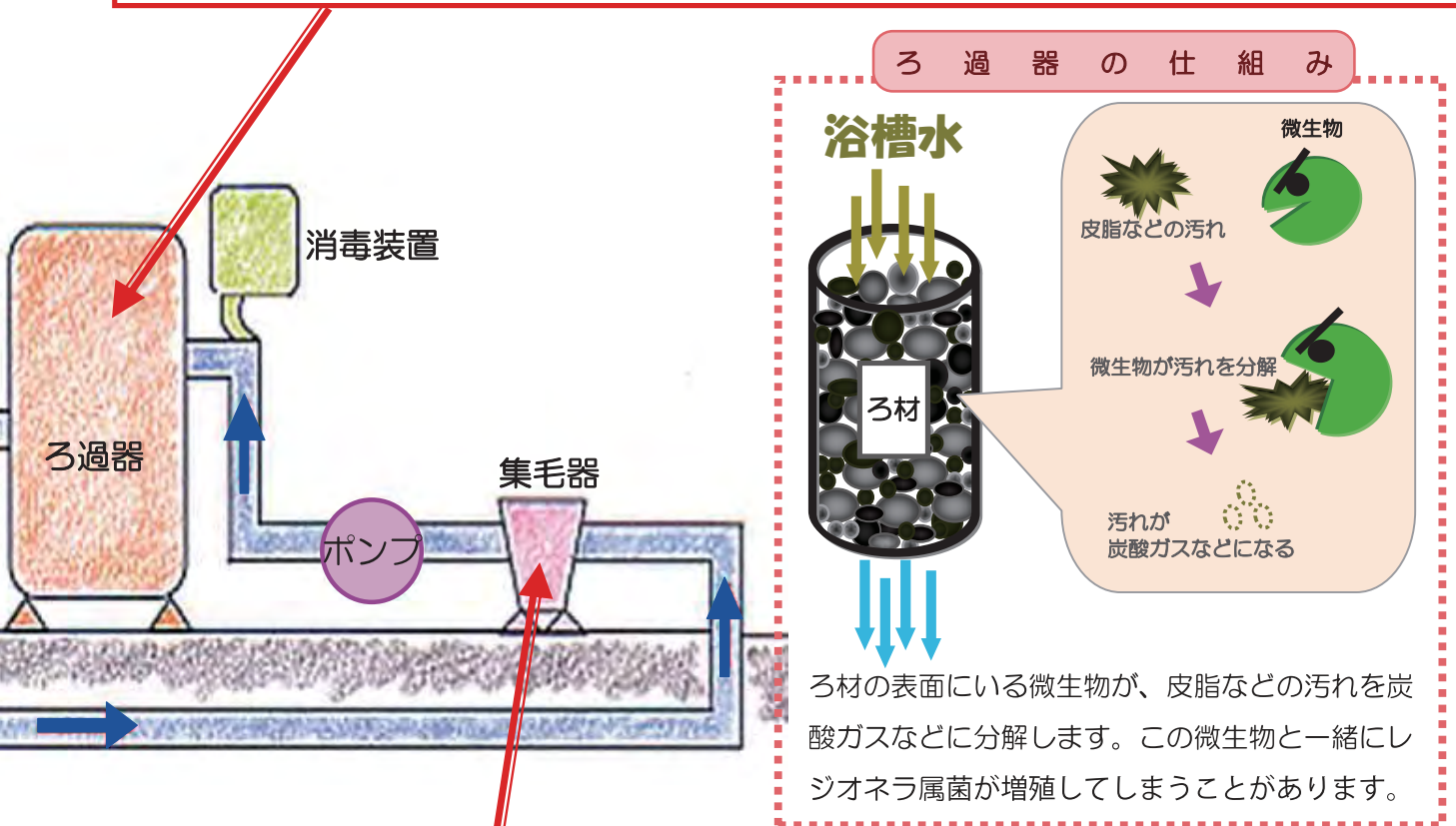
上記に加え、年に1回以上は専門の業者による配管等の洗浄・消毒を行いましょう。

ろ過器の管理（生物浄化式）

生物浄化式ろ過器は逆洗浄や、ろ過器そのものの消毒ができません。
生物浄化式ろ過は自然石などの表面に微生物を繁殖させ、微生物の力で浴槽水の汚れを分解させる仕組みのため、ろ過器を消毒すると、汚れを分解する微生物も死んでしまうからです。また、ろ過器の中で、汚れを分解する微生物と一緒にレジオネラ属菌も増えてしまうことがあります。

このため、生物浄化式の浴槽は最もレジオネラ属菌が繁殖しやすい浴槽です。

管理者はその危険性を良く認識するとともに、ろ過器メーカー等に相談し、十分な管理を行う必要があります。



集毛器（ヘアキャッチャー）の清掃

集毛器は特に「ぬめり」がしやすい場所ですので、**使用日ごとに蓋を開けて中のバスケットを取り出し清掃します。**

その際、バスケットを塩素系薬剤で消毒すると良いでしょう。



集毛器（ヘアキャッチャー）



蓋を外してバスケットを取り出したところ

8 管理方法 ④チェア浴槽（循環型機械浴槽）

チェア浴槽の多くは、浴槽へのチェアの出入りの際に、浴槽水をいったん補助水槽に移し替えます。このように、浴槽と補助水槽が配管でつながっているタイプのチェア浴槽は、循環型機械浴槽となり、ろ過器の清掃、配管の消毒などの管理が必要です。

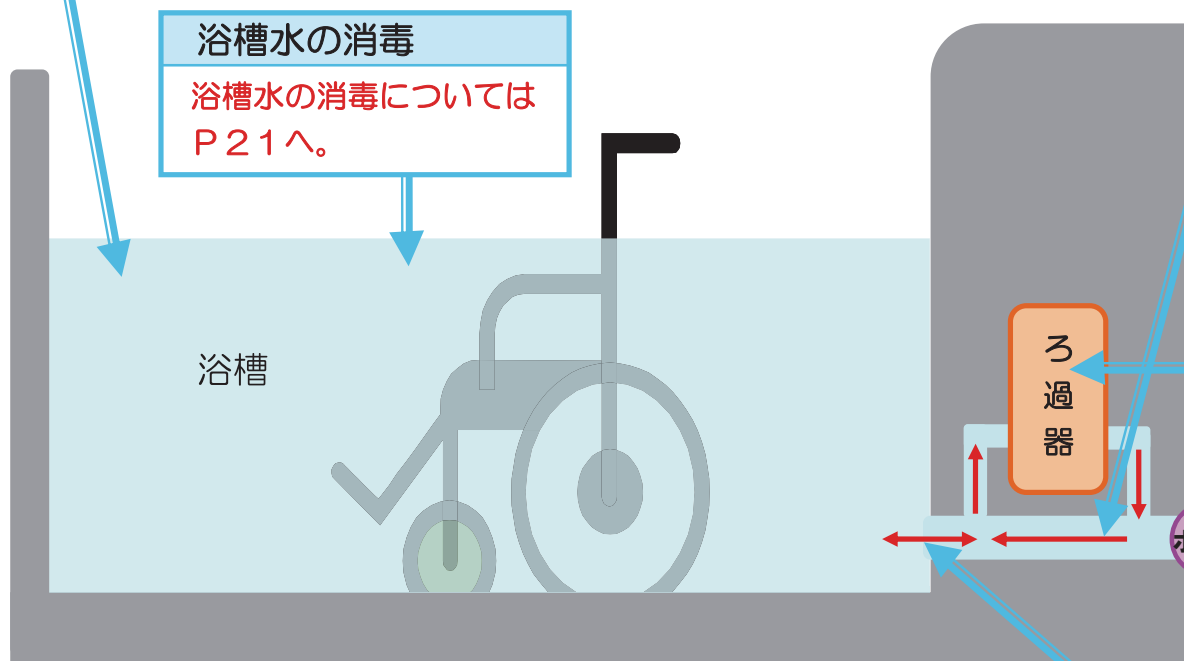
なお、最近のチェア浴槽では入浴者ごとに湯を入れ替えるタイプもあります。このタイプは入替型チェア浴槽となります。

浴槽水の換水と浴槽の清掃

使用日ごとに必ず換水・浴槽の清掃をしてください。

機械浴槽は、湯量も少なく構造も簡単なので、必ず使用日ごとに換水と浴槽の清掃をして下さい。

車椅子も忘れずに清掃しましょう。



浴槽水の消毒

**浴槽水の消毒については
P21へ。**

浴槽

ろ過器

使用日ごとの清掃では、
浴槽水の換水・浴槽の清掃→補助水槽の清掃→ろ過器の清掃 を行います。

週に1回以上の清掃では、
ろ過器の清掃→配管の消毒→浴槽水の換水・浴槽の清掃→補助水槽の清掃
を行います。

上記に加え、定期的ろ過器のカートリッジを交換し、
年に1回以上は専門の業者による配管等の洗浄・消毒を行きましょう。

配管の消毒

週に1回以上、浴槽に通常の10倍程度の塩素系薬剤を投入し、5~10mg/Lの残留塩素濃度の浴槽水を循環させます。

※ 機械のスイッチは入れたままで行います。

最初の数分間バブラーを作動させると短時間で機械全体に塩素系薬剤が行き渡ります。

ろ過器の清掃 (カートリッジ式)

チェア浴槽のろ過器の多くはカートリッジ式です。

汚れやすく、「ぬめり」が発生しやすいので、使用日ごとにカートリッジを取り外して清掃・消毒をします。



浴槽壁面のカートリッジ式ろ過器



カバーをはずして
カートリッジを見たところ

補助
水槽

ポンプ

補助水槽の清掃

見落としがちですが、補助水槽も使用日ごとに清掃しましょう。排水しても底の方に溜まり水が残ってしまう場合は、清掃後の溜まり水に塩素系薬剤を少量入れておくことで細菌の繁殖を防ぐことができます。



補助水槽

補助水槽は、浴槽へのチェアの出入りの際、浴槽水をいったん移し替えるための設備です。



ろ過器への取入口付近は髪の毛やごみがたまりやすいので念入りに清掃しましょう。